



Japan Society of Mathematical Education

Private Postbox No.18, Kaishikawa Post Office, Tokyo 112 Japan/phone(03)3946-2267/fax(03)3946-3736

## ICME-9の日本開催まで16ヶ月

2000年の夏に日本で開催されるICME-9の会期(31 Jul.-6 Aug.)まで一年半足らずとなり、国際プログラム委員会(IPC)と国内組織委員会(NOC)の協力による準備が急ピッチで進められている。

2000年は、たまたま世紀の更新の年であるだけでなく文化文明の転回期を象徴している。実際、コンピュータの発達と普及による社会の情報化は、知的活動のパラダイムの変換をもたらそうとしているし、全世界的な即時性をもつIT通信の進歩は知的交流の範囲のコンパクト化を実現している。その時期に、数学ならびにその教育の価値観と使命が新たに問われるのは当然である。これは正にWMY2000の運動の趣旨とするところであろうが、新世紀の文明の中で生き新時代の文化を担う児童生徒の育成に直接かかわるだけに、数学教育にとっては正面の課題であり、2000年に開催されるICME-9の主題をなすものであろう。

ICME-9のもう一つの特色は、アジアで開かれる最初のICMEであることである。世界に広がる数学教育の活動は目標と方法の多くを共有しながらも文化的伝統を反映して個性的である。それゆえ、新世紀における数学教育の進路を探るためには、世界的な協力が必須である。東洋の総合的な英知と西洋の分析的な科学精神の連携がICME-9の場に於いて芽生えることが切望される所以である。

ICME-9のプログラムの構造は最近のICMEコンGRESの構造を踏襲している。たとえば、企画されている多様な行事の活動のなかには、4件の総合講演、約40件の特別講演、13組のWGA(Working Group for Action)、23組のTSG(Topics Study Group)が含まれる。なお、大会の初日に行われる国際円卓会議は、特にWMY2000に協賛するものと位置づけされており、新世紀の期待される数学教育像についての討議に、臨場のパネリストに加えて何人かの世界の名士が(ITメディア利用により)遠隔参加する予定である。

具体的な準備の報告としては、RLの講演者の人選は現在進行中であるが、PLの講演者やWGA、TSGのテーマはすでに配布されている、ICME-9の一次案内に記載されている。WGAやTSGの主組織者達も殆どが確定し、その氏名とe-mailアドレスはICME-9の公式なホームページ(<http://www.ma.kagu.sut.ac.jp/~icme9/>)で見ることが可能である。二次案内は、この夏に作成する予定であるが、世界各地のできる限り多くの方々に御覧頂けるように、そうして、結局はICME-9に参加して下さるようにと願っている。

1999年4月1日 記

ICME-9, IPC 委員長, NOC 会長

藤田 宏